第３回県立高等学校改革懇談会（船引・小野）記録

日　時　　令和５年１月１９日（木）１４時００分～１５時３０分
会　場　　小野高等学校　視聴覚室
出席者　　別紙一覧参照
傍聴者　　８名

進行
（１）　開会

（２）　県立高校改革監挨拶
　本日は、白石市長をはじめ、委員の皆様、大変お忙しい中、御出席いただきまして、誠にありがとうございます。また、併せまして両校の学校運営、あるいは生徒・教職員への御支援を賜っておりますこと、重ねて感謝を申し上げたいと存じます。この船引高校と小野高校の統合に関します改革懇談会は、これまで２回開催いたしました。その中では、県立高校改革後期実施計画の策定に至った経緯でありますとか、あるいは、両校の現状、そういったものを踏まえまして、子どもの学習環境の充実と安定的な学びを確保していくといった目的のために、両校を統合したいという判断をした経緯などについて、御説明したところでございます。委員の皆様からは、統合に対しまして、厳しい御意見なども頂戴しましたが、両校の統合の必要性につきましては、一定の御理解を頂けていると受けとめております。また、前回の改革懇談会の中では、委員の皆様から、生徒や現在の学びの実状、そういったものに合わせまして、「統合校に入学した生徒が、元々、入学した学校の校舎で学ぶことはできないのか」といった声ですとか、あるいは、今後の統合校における学びの件については、「しっかりと子ども達の声も受けとめていくべきだ」といった声、あるいは、「新たな総合学科と言えるような充実した教育内容にしてほしい」といった御意見を頂きました。本日の懇談会におきましては、そういった事を踏まえまして、県教育委員会側で、これまで検討してまいりました内容につきまして、御説明申し上げます。それを踏まえまして、更に、皆様から御意見を頂きながら、検討を深めてまいりたいと思います。本日も、是非、忌憚のない御意見を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

（３）　説明（担当）

（４）　懇談（菅野改革監）

＜懇談＞
【菅野崇】(県立高校改革監)
　ここから懇談に入る。
　以上が前回までに頂いた御意見などを基に、これまでに検討してきた内容である。御意見などあったら、皆様から自由に御発言を頂きたい。

【白石高司】(田村市長)
　御説明、感謝する。資料を拝見したが、系列の部分で「仮称」とある。私は「プロフェッショナル系列」という名称を大変気に入った。将来、社会の中で「即戦力」となるべき「プロフェッショナル」を作っていくという意味において、是非、この名前を残していただきたい。おそらく子ども達も、この名前に惹かれるのではないかと思う。

【菅野崇】(県立高校改革監)
　今回は「仮称」ということで、これから検討することになる。市長の御意見を参考にしたい。御意見に感謝する。

【村上勝徳】(地元有識者)
　若干、未練がましくなるが、現在、小野高校にある施設、特に農業関係の施設についてである。もし、今後の活用方法が決まっていないのであれば、是非、小野高校で行われている花の栽培など、農業関連施設の今ある姿を有効活用していただけないだろうか。御検討願う。

【中野正人】(県立高校改革室長)
　現在、小野高校にある農業施設（ビニールハウス・水田など）、農機具などの今後の活用に関する御意見だと思う。既存の施設・設備についての今後の活用方法については、今示した学びの部分に基づき、統合校に引き継げるものは引き継ぎ、活用していきたい。今、頂いた御意見を基に、更なる検討をしていきたい。

【飯村新市】(田村市教育委員会教育長)
　只今の説明を聞き、2 回目の懇談会の意見を反映した計画になっていることに大変感心した。感謝する。そこで今、市長からあったように、系列名で「プロフェッショナル系列」の方は大変インパクトがあるが、「文理探究系列」は、オーソドックスで、子ども達にとってみれば何をやるのか分かってしまうと思う。進路を選択する時、「何をやるかわからないところ」に魅力を感じる子ども達も多いので、是非「文理探究系列」は、名称を変えていただきたい。「プロフェッショナル系列」と合わせると、少しレベルが違うように感じた。御一考いただきたい。
　それから、子ども達は、何をもって進路選択をするかという部分で、大きな主眼点となるのは「制服」だ。是非、制服も高額にならない程度でインパクトのあるものにしていただきたい。郡山市内にある私立高校は、制服を変えたところ、以前と比べて、倍以上の子どもが集まり、一気に難化したということもあったので、この辺は見過ごせないところだ。よって、制服についての検討をお願いしたい。
　最後に、スライドの２１ページ（「両地域の自治体や地域企業との連携」について）だが、大学進学のために考えたカリキュラムを組んでいただけると思うが、ここの所を、ただ「大学」ではなく、「国立大学」や「超難関大学」とまでは言わなくても、「一流大学への進路選択もできるようなカリキュラムを組みます」という感じで考えていただけると、子ども達ばかりでなく親御さん達の選択肢も広がり、郡山の高校ではなく、地元の高校に進学したいと思うのではないかと考える。何気ないところだが、ニーズを広げるような文言にしていただくと、子ども達が集まってくるのではないかと思う。

【中野正人】(県立高校改革室長)
　令和３年度からこれまで前期計画に則って統合を進めてきたが、制服の内容を公表すると、その制服に対する反響は大きなものがあった。魅力的な学校だと感じてもらえるように、系列の名称や将来の進路など、子ども達へのアピールや見せ方を工夫していきたい。

【安瀬一夫】(地元有識者)
　２点、意見を申し上げる。まず、系列は２系列で良いのではないかと思う。ただ系列は、相互に関連の深いいくつかの科目をまとめたグループなので、具体的にどのような科目を設定するのかが、魅力のある系列になるかどうかの分かれ目になる。もし今、具体的に検討していて、提示できるものがあれば教えていただきたい。提示できるものがないのであれば、既存の科目や他の総合学科の高校でも設定している科目を流用するのではなく、まるっきり新しいものを創造していただきたい。ただそれを１０科目、２０科目と設定するのは当然、難しいので、３つから４つ設定して頂ければありがたい。それこそが中学生の好奇心を高め、新しい統合校への関心を呼び起こすものになると思う。
　もう一つは、大学進学への教育である。私は大学進学への教育は変えなくてはならないと思っている。かつて、我々の世代において、大学進学といえば「一般受験」が主だったが、最近のトレンドは、学生側も大学側も「総合型選抜」「学校推薦型選抜」であり、それを希望する高校生は多い。大学も傾向が変わり「総合型選抜」「学校推薦型選抜」を主に考えている大学が非常に多くなってきている。それを見据え、難関校向けの科目だけではなく、高校生が身に付けるべき基礎的な力をしっかり身に付けた方が、大学進学に良い結果が出るのではないかと私は思う。以上２点、検討いただきたい。

【中野正人】(県立高校改革室長)
　具体的な科目とカリキュラムの設定については、今後の検討ということになる。他校にない特色ある科目を設定できるように検討してまいりたい。それから、大学進学については、学力をツールとした入試を受けて大学に進学するというのが一般的なのものであるが、最近では、「総合型選抜」が増え、どこの高校でも「総合型選抜」に向けた取組を行っている。本統合校でも、両校の地域を含め、地域探究の学びを行っていく予定である。そういった探究活動の実績を基に、総合型選抜にチャレンジし、大学進学を果たしていくことを考えていきたい。当然、大学入学後に困らないような、しっかりとした学力を身に付けさせる学習に取り組ませるとともに、そうした課題探究の学びを使った総合型選抜での大学進学を考えていきたい。

【金子伸之】(小野中学校長)
　一つ質問がある。資料の１１ページ（中学生からのアンケート）にあるように、中学生が高校で期待している事の２位になっている「部活動」だが、「部活動を高校に行ってやりたい」という生徒は沢山おり、それで高校を選んでいる人もいると思う。そこで１０ページに「校舎方式」についての記載があるが、通学する生徒にとって、地元の高校に卒業までいられることは大変良いと思う。しかし、もし部活動をやるとすれば、小野高校の校舎にいる生徒は、今の中学１年生が卒業する時には、在校生は３年生しかいないことになる。年々、生徒が減っていく中で、部活動はどうやって維持していくのかお聞きしたい。

【中野正人】(県立高校改革室長)
「校舎方式」を採用する学校の部活動については、現在、自分の学校の生徒だけで、単独のチームの編成ができない部活動もある。そのような学校の部活動では、平日の練習は自校で行い、土日等は１か所に集まり練習試合や合同の練習をしている。今年度統合した学校の中で、「校舎方式」を採用している学校では、そのように対応している。

【助川徹】(船引中学校長)
部活動関連になるが、魅力ある部活動編成も大事な要素だと思う。新設校として指導力のある優秀な先生を揃え、部活動にも特化し、売りにしていくことにすれば、中学生は「そこで自分の力を伸ばしていける」と魅力を感じると思う。部活動についても検討していただきたい。

【菅野崇】(県立高校改革監)
部活動は生徒達にとって非常に関心の高いものだということは、今回のアンケートで分かった。そういった事を皆様と共に検討してまいりたい。

【有賀仁一】(小野町教育委員会教育長)
２つ質問する。前回の懇談会において、地元企業は田村地区の子ども達を採用したいと考えているが、なかなか応募してくれないという話を紹介した。それを踏まえ、「田村地区の職業をリサーチをして教育内容に反映させて欲しい」と私は提案した。先程の説明で、少し言葉が聞き取れず「・・・で、リサーチしてみました」とあったが、リサーチの結果を聞きたいことが一つ。二つ目が、二人の校長先生の話しと重複する部分があるが、「校舎方式」を採用する予算はあるのかということだ。校舎方式の採用は小野町の人間としてはありがたいが、部活動の問題も含め、今の中学校１年生・２年生が希望して小野高校に入ってくれるかどうか正直不安だ。仮に、希望して入学したとしても、少ない人数で、どれだけ自分が目指す学びをできるのかということになり、小野高校を希望しない子どもが増えるのではないかという懸念がある。そこで、前期の取組において「校舎方式」を取っている高校の入学生徒の現状を聞かせていただきたい。実際、「校舎方式」で学ぶ高校生にとって良いものなのかどうか疑問に思ったのでお聞かせいただきたい。

【中野正人】(県立高校改革室長)
前段のリサーチ結果については、本日持参した資料に紹介できるものがないので後日お知らせしたい。２点目の「校舎方式」を採用している学校の現状だが、前期に統合計画を公表した段階で、統合後に校舎が使われなくなる予定の高校の志願者数は下がった。しかし、一時的に減った志願者数は、統合前になると少し持ち返すような傾向もあった。やはり、その地域の高校ということで、一定のニーズはあると捉えている。統合により最終的に校舎が使用されなくなるが、受け入れた生徒については、しっかりと学びの手当ができるよう対応してまいりたい。

【菅野望】(小野町副町長)
今回、系列科目群ということで、現在の小野高校での取組も引き継いでいただき感謝する。それで、今回のアンケート結果を拝見し、気になるのが、農業・福祉関係の興味・関心が低

いことだ。農業・福祉関係の人材の確保・育成は、非常に重要であり、今後、科目の内容を検討することになると思うが、魅力ある内容にし、田村地域だけでなく他の地域からも生徒を呼び込めるような内容にしていただきたい。もう一点だが、統合校については、小野町としても、田村地域の学校として関わっていく形になるが、要望として、こういった会議の場でなくても良いが、これから統合するまで、もしくは、統合後についても、小野の地域の方も関われるような体制作りを検討していただきたい。

【中野正人】(県立高校改革室長)

先程、調査のデータがないと言ったが、手元に結果があったので紹介させていただく。従業者数のリサーチ結果だが、製造業が 22.8%と最も多く、次いで建設業が 20.8%、卸売・小売業が 19.8%と続く。当地域の特徴は、建設業の従業者数が非常に多いことであり、福島県平均の 1.9 倍となっている。また、製造業の従業者数を見ると、当地域の製造業のうち、繊維工業が 26.6%、電子部品・デバイス・電子回路製造業が 11.８%、業務用機械業が 10.5%、輸送用機械業が 9.3%、以下、ゴム製品製造業、窯業、土石製品製造業などと続く。農業・林業の従業者数は、割合が全体の 2.５%（３３９人）で、その内、農業従事者の割合は、19.５%、つまり 339 人の 2 割程度となっている。最後に、医療・福祉の従業者数の割合は 13.5%（1,817 人）、その内、社会保険、社会福祉、介護事業の従事者は、45.2%、およそ半数（1,000 人弱）となっている。そこで、今ほど、菅野副町長から、今後の検討において、地域の方々の意見が反映されるような枠組みにしてほしいといった御意見を頂いた。こちらについても、学びの構成と併せて検討したい。御意見感謝する。

【菅野崇】(県立高校改革監)

調査の結果は、一つの統計データであり、この地域の特徴を示しているものだと思う。菅野副町長からもあった通り、関心の低い部分については、これから関心を持っていただき、更に魅力を高めていくという作業も必要かと思う。今回、教育長に御意見を頂き調べた結果、そのようなことも見えてきたので、これから教育内容を検討するにあたり、参考にさせていただく。御意見感謝する。

【二瓶晃一】(小野高校同窓会副会長)

まず部活動の件だが、これは最近の全国ニュースからの情報でしかないが、「学校において、部活動が先生の負担になり、大変な事になっている」という話をよく聞く。私が統合高校を考える時、部活動の重要性は、先程、中学校の校長先生から話があったように、中学生を惹きつける大変重要な要素だと思うが、新しい学校を作るということなので、せっかくならば、これが全国で初めての事になるかどうかは分からないが、「部活動を外に出す」ということを思いきってやった方が良いのではないか。学校の先生が教えるのではなく地域から指導者を募り、一つのクラブとして地域の中でスポーツを運営していき、その中で学校のスポーツもその中に含めるというような形を取るようにする。もし、これが初めてのケースであれば、「初のケース」として統合高校の一つのイメージ戦略とすることができる。例えば、人数が少なく指導者がいないようなケースに関しても、子ども達はそれで諦めるのではなく、そこのクラブに所属をし、学校に通いながら部活動としてのスポーツはクラブで行い、地域と連携し、そういったものを作るようにしていくのだ。本来ならば部活動以外の所でも、そういった連携は必要だと思うが、昨今のニュースで部活動が教職員の負担になっているケー

スを聞くと、思い切って外に出し、新しい部活動のイメージを構築することを、新しい学校を作るときに、やってみて、それが全国で初めてならば、「全国で初めて、そういった事に挑戦する学校である」というインパクトのあるアピールになると思う。それに関連し、先程、在校生が元々の校舎で卒業する時に、部活動などに支障をきたすという話があった。当然、そういう事はあると思うが、それに関しては、今も「交流会」や「合同行事」を実施することになっているが、統合することが確定していて、段階的に検討しているのであれば、まだ学校が統合していないもっと早い段階から、船引高校と小野高校の「交流事業」や「部活動での交流」を進めたら良いのではないかと思う。そのために必要であれば、地域、行政は同窓会などに協力を仰ぐようにすれば良い。私の一存で、同窓会が協力するか否かは、ここで決められる事ではないが、そういう事をやるのが同窓会であると思う。同窓会の他にも、小野高校には「柏葉会（はくようかい）」という、日頃から、スポーツ関連の事業に寄付を集める団体もある。船引高校はどのような状況であるかは分からないが、せっかくならば、そういう事を進めていけば良いと思う。それで、両校において「ねじれ現象」が起きている。例えば、「船引高校には陸上部はないのに、船引には陸上競技場がある」。「小野高校の野球部は人員不足でチームが作れないのに、小野町には野球場がある」。このようなことがあるので、それぞれの自治体が持っている施設を学生達に有効に使ってもらうことも含め、総合的に地域のスポーツというものと、学生のスポーツ（部活動）を合わせた新しい形で、学校の正式な統合より前の段階で、いろいろなチャレンジをしていくことが、成功の秘訣になると思う。そういう事に挑戦していただきたい。実際、船引高校と小野高校の野球部は合同チームで戦っている。練習も含め、練習試合などを小野町の野球場を優先的に使えるようにするとか、小野高校の陸上部が、やり投げや砲丸投げのために芝生が欲しいという生徒からの要望があったので、船引の陸上競技場を優先的に使うということになれば、より地域と学校の連携が深まっていくのではないかと思う。また地域の指導者、もしくは地域外であっても協力してくれる指導者、そういったものの人的なバンクをすすめていって、実際に統合して、もし仮に部活動を外に出すことが現実になった時、指導者を揃えられる体制ができるのではないかと思う。もう一つは、統合について、カリキュラムの事を含め、良くまとまっていると思う。また、今の小野高校の状況を踏まえ、それをベースにし、船引高校で実施している「デュアルシステム」を取り入れた形になっており、まとまっていると思うが、気になるのは、今のリサーチの問題もそうだが、「今の現状は、こうなので、こうだ」といったことは、子ども達の将来や地域の将来を考えていく時、「今現在の状態はこうだからリサーチをして、こうだ」というのでは、少し足りないのではないかと思う。子ども達の将来の出口というか、子ども達が将来どうなっていくのかということと、地域にとって必要な人材は何なのかということ、そういったものを含め、現状を把握し、現状に対する人材・カリキュラムというのは、とても大事であり、それがベースになるのだが、「こういう人材が欲しいからこそ、こういうカリキュラムを作る」もしくは「こういう人材になってほしいから、こういったカリキュラムが欲しい」というような、少し一段上がった所の設定が必要だと思う。工場の人達と震災後、いろいろと話をする機会があった。地元から採用された人材は、私どもの年代だと同級生の中に、工場長になっている人もいるが、「次の人材」がなかなか地元から出ない。つまり、地元採用者で管理職になるような人材がなかなかいないということだ。これは、地元地域の子ども達にとっても、単に就職することも大切だが、その中から人材として、小野町でいえば、東京などの大都市圏に本社があり、こちらに工場がある所が多いわけだが、そこの管理職になり、やがては工場長になるというような人材が欲しいということなら、それ

は逆に子ども達の最終的な出口・目標となるような、非常に魅力的なものであると考えていた。そういう意味では、「そういった人材を育てるために、どうしたら良いのか」といったことを踏まえ、少し検討が必要であると思う。例えば、私は小野高校の改革で、存続するための改革をどのようにするか、いろいろな人達と話し合いをしたとき、そういった人材であれば、例えば「秘書課」のような部署が欲しいのではないかといったことがあるのだが、いわゆる、工場の中でも「ホワイトカラー」的な所を求めているといった人材もあるので、就職といっても、現状の中ではなく、一歩進んだ中で、そういったカリキュラムを子ども達に提示してやるのも必要なことだと思う。それが、子ども達にとっては「魅力」に映るのではないかという感じがする。それで、やはり、大変良くできているのだが、マーケットの手法というか、どういう人達が、どういう子どもに学校は来てもらいたいのかと思っており、どういう子ども達に、それを情報として届け、その後「お客さん」として来てもらい、高校を存続させ、発展させていくかという考え方だ。先程「ネーミング」の話が出たが、そのネーミングなども踏まえ、ライバルは私立高校だと思う。私は、小野高校のことしか分からないので、船引高校の事情は分からないが、どうしても、ライバルとなるのは私立高校になってくる。今の私立高校は「特進科」という学科を掲げ、「生徒は大学に必ず進学させます」といったことをしている。それが、県立高校では良いとは思わないが、先程言ったように、学生自体も推薦でいこうと考えているので、そういった所の特色を、逆に狙って打ち出すのも良い。要するに、ネーミングや、そういったものというのは、我々、学校関係者だけでやっていると、どうしても限界があるので、もう少し幅広いある意味ではプロフェッショナルなところのアイデアが欲しいのではないかと思っている。第１回の小野町だけで懇談会の時、そのような話をしたが、マーケティング的な手法を取り入れながら、私立高校に負けない県立高校としてために、お金の問題などあるかもしれないが、そういうところをやっていかなくてはならないかと思う。私は、小野高校がなくなるということで、新しい統合校に対し、どういう思いをしたら良いのか、混沌としているのだが、是非、小野高校の同窓生が、「統合校が自分達の母校である」という意識を持ってもらえるような学校作りをしていただきたいと思う。何より新しい学校を作るという機会は、そうそうないので、「日本一の高校を作る」というような意気込みで、いろいろな事に取り組んでいくということが必要なのではないか。そうすれば、私達も「高校が無くなる」と落ち込んでいるが、日本一の高校を作るという、そのくらいの意気込みがあるのならば、小野高校の同窓生も「我々も協力しましょう」となると思うので、是非、そういった心意気でやっていただきたい。

【中野正人】(県立高校改革室長)

部活動については、昨今の「多忙化解消」「働き方改革」に基づいた視点から「部活動を思い切って、外に出すべきではないか」という御意見、現状に即した形だけではなく、目指すべき人材というものを見極めながら、教育内容・カリキュラムを考えていくべきではないかという御意見、また、これは非常に重く受け止めるところだが、統合校が小野高校の卒業生にとっても母校だと思えるよう、素晴らしい学校となるように進めるべきであるという御意見、これらについては、しっかりと受け止めさせていただき、今後、統合校の方向性、具体的な内容を検討する際にはそこを肝に銘じながら取り組んでまいりたい。

【鎌田俊寿】(船引高校 PTA 会長)

スケジュールについて確認したいのだが、まず魅力化、特色化、教育課程の検討が令和５

年から令和７年６月までの長期間予定されている。それに対し、令和６年８月には中学２年生対象の説明会があり、令和７年７月には体験入学が予定されている。子ども達が中学生になり、中学２年生で進路を決定する際に魅力化、特色化、教育課程の検討については、令和５年度中に大筋を決めていただき、それに対し、皆さんの話にあった、魅力化、特色化をはかり、少なくとも令和６年７月から９月には、具体的に「このような学力の生徒達を募集するのです」というようなものを提示しないと、「そこに向かって頑張ろう」「成績を上げよう」というモチベーションを上げられる取組が表れていないような気がする。令和５年度中には、大まかなアウトラインを示していただくことが重要だ。子ども達が高校の制服なども含めて検討する事ができ、保護者も勧めることができるような、アウトラインを示すことが必要だと思うので検討いただきたい。あと、船引高校が残るということなので、たむら支援学校は現状のままということでよろしいのか伺いたい。

【中野正人】(県立高校改革室長)
　まず、スケジュールについては御指摘の通りである。教育課程の検討は最終的には統合前年度の８月までに県の教育委員会に提出する流れになっており、それまでにより良いものを検討していくという意味合いで、ここまで引っ張るということである。会長のお話の通り、令和５年度中には大筋、あるいは具体的な方向性をしっかり決めた上で、令和６年度、中学２年生対象の説明会に臨んでいきたい。制服等については予算に絡むところであり、統合前年度に物を作ることになっているので、そこのところは、令和７年度中に決めていくことになるが、体験入学の頃には、お示しできるように進めていきたい。また、現在、たむら支援学校の高等部は船引高校に併設しているが、統合後も特に変更はない。

【鎌田俊寿】(船引高校 PTA 会長)
　カリキュラムに「保育・福祉」があるので、たむら支援学校という特色ある学校があることで、統合校においても大変良い環境になるのではないかと期待する。加えて、より良いカリキュラムを含めたコンビネーションが組めるように重ねて期待する。また部活動の交流についてだが、学校でマイクロバスを持っていると思うのだが、その中で「週末の土曜・日曜だけ合同で」というのは、あまりにも淋しい。環境が許すのであれば、スクールバスの使用は難しいと思うが、学校のマイクロバスを利用し、平日のうちできれば週３日くらい合同で練習できるような環境ができれば、先程出ていた３年生の１学年だけで練習するという疎外感はなくなるのではないか。検討願う。

【中野正人】(県立高校改革室長)
　たむら支援学校との交流については、現在も、船引高校の猪狩校長を中心に進めていただいているところ。そういった取組は、子ども達に向けて多様性の学びということで、最も取り組むべき内容だと思っている。御意見感謝する。また、部活動での後援会のバス等の利用という点については、今後検討してまいりたい。

【梅原和也】(小野高校 PTA 会長)
　新しい総合学科を作る一方で、統合後の小野高校の在り方、または、既に統合された学校の校舎の在り方など、今現在どのような使われ方をしているのか、分かる範囲で教えて頂きたい。

【中野正人】(県立高校改革室長)
　小野高校は、先程お伝えしたように「校舎方式」を採用し、統合までに入学した生徒が、卒業するまで使用していくという方向性をお示しした。今後、跡地については小野町と相談しながら考えていくべき内容だと思っている。

【菅野崇】(県立高校改革監)
　これまで統合した学校についてだが、現在、何らかの形で使われているという事例はないが、地域の方にとって学校や校舎の持つ意味は十分承知しているつもりだ。今後、地元の方々に話を伺いながら検討を進めていきたい。

【阿部君江】(地元有識者)
　前回、「専門学科というのが、大変分かりにくい」ということを申し上げたが、丁寧に説明いただき本当に感謝する。１年生で「自分の将来について、しっかりと考える」、２年生からは「その考えに基づいて進路希望に応じた科目の選択をして頑張っていく」という事が書かれている。私は全て把握できたわけではないが、大変分かりやすくなっている。しかし、それは私がこの会議に出席させていただいているので、内容がはっきり分かるということもあるかと思う。よって、この事は最後まで皆さんに分かりやすいようしてもらうことを考えて頂きたい。２つ目は農業の科目についてだ。これまで小野高校の生徒が一生懸命やっていたと思うが、農業の科目について、もしかしたら統合後の新しい学校では期待できないのではないかと考えていた。しかし、前回の懇談会でデュアルシステムの事を知り、その事については安心した。先程から農業施設や運動施設について、両校で交流しながら使っていくという意見が出ていたが、そういう事も取り入れてやっていただくと大変良い。これから新しくどこにもない素晴らしい学校をつくるにあたり、専門学科の中で新しい科目は、小野高校と船引高校の科目が出ているようだが、県の方で新しい科目に対し、何か考えがあるならお聞きしたい。

【中野正人】(県立高校改革室長)
　これまで説明してきた内容について「会議に出席しているから分かるようなものではなく、もっと分かりやすく、しっかりと伝えていくようにするべきだ」という御意見、まったくその通りだ。また、選択科目の在り方については先程も説明したが、これから両校の先生と共に検討していく段階だ。本日「子ども達が学ぶ分野として、こういうものが必要である」ということを整理させていただいたところである。今後、具体的なカリキュラムについて、御意見を頂きながら、先生方と共に考えていく。先生方にも今の御意見を伝え、検討を進めてまいりたい。

【佐藤利男】(地元有識者)
　今回の資料を拝見し、非常に良くまとまっているという感じた。それから、学校が統合するので、互いにコミュニケーションを取っていくことは、生徒達にとって大事な事だが、俗にいわれる「校内外での『いじめ』」は、大きな問題であり、新聞やテレビでよく報道されている。そこで教育委員会は本当の実態を話さず、もう少しすっきりと明るみに出してもらえば良いのではないかと我々から見ても感じるところがある。その様な事がないように、新しい学校では楽しい学校生活ができればと思う。そういったところは関係者がフォローしな

がらやっていただければと思う。

【菅野崇】(県立高校改革監)

議論に感謝する。これまで頂いた御意見は新しい学校に対する期待の声だと受け止めている。今後、更に検討していきたい。

本日は、貴重な御意見を賜り感謝する。船引高校と小野高校の統合校だが、県中地区唯一の総合学科の高校として、生徒の学習ニーズに合わせ、様々な科目を設け、地域に根差したキャリア指導推進校にしたいと考えている。本日、頂いた御意見の中には、そうした魅力をインパクトあるものにし、皆さんに関心を持っていただく重要性、あるいは、「統合した学校が我々の母校なのだ」と感じていただけるよう、日本一の学校を目指してもらいたいという言葉、あるいは、これから入学してくる子ども達のためにも検討を早く進めて結果を示していくことが大事であるという御意見、あるいは、新しい学校に対する期待、あるいは、地域に開かれた学校といった御指摘も頂いた。本日、こちらからは「校舎方式」を提案させていただいた。その上で、その他細かい部分について教育内容を検討してまいりたいと考える。この懇談会については、今回で一区切りとさせていただく。今後は、頂いた御意見を丁寧に踏まえ、更に、関係者と共に検討を深めてまいりたい。その際、皆様をはじめ、地域の方々の御意見を踏まえ、地域を支える核となる人材というものを育てていけるような、魅力のある高等学校に作り上げていきたいと考える。皆様には両校の発展的な統合に向け、今後も変わらない御支援を賜りますようお願い申し上げる。これまでの御協力に感謝を申し上げ、改革懇談会を終了とする。御協力に感謝する。

（５）　閉会